

# 申込書例

## 第●回国内研修事業申込書

申込日 20XX年○月○日

氏名	しみず たろう		年齢	※申込時の年齢 39 歳
	清水 太郎			
メールアドレス	※本研修の可否通知や決定後の案内、資料等すべてメールでご連絡します。頻繁に確認するメールアドレスを記入ください。 shimizu@shimizukikin.jp			
職種	相談支援専門員 <span style="border: 1px solid green; padding: 2px;">障害児者を対象とする事業所・施設等での経験年数</span>			
障害福祉経験年数	8 年 <span style="color: green;">↙</span>	福祉国家資格	社会福祉士・精神保健福祉士	
所属	法人名	しみずききん 社会福祉法人清水基金		
	事業所名	しみずじぎょうしょ しみず事業所		
	事業所住所	〒 103-0027 東京都中央区日本橋3-12-2 朝ビル内 Tel: 03-3273-3503		
	事業種類	相談支援事業・生活介護		
	職場概要・仕事内容	※簡潔に記載すること  <概要>当事業所は、●●●●年に開設し、現在利用者●名、職員●名が在籍する。事業種類としては、相談支援事業・生活介護を行っている。近年相談支援サービスの比重が高くなっている傾向にある。  <仕事内容>相談支援事業にて、障害のある方やその家族の相談、サービス等利用計画の作成、定期的なモニタリング、福祉サービスの利用調整等を行っている。ケース数は85件で… <span style="border: 1px solid green; padding: 2px;">仕事内容は、ご自身がどのような業務を行っているか具体的に記入</span>		
	知ったきっかけ	福祉新聞・社協		

※本研修申込に伴いご提出いただいた個人情報は、本研修（選考、研修、研修に付随する事務手続き）にのみ使用します。

# 研修志望動機

法人名 社会福祉法人清水基金

氏名 清水 太郎

## 1. 志望動機

## 2. 研修で具体的に学びたい事

# 履歴書

20XX年 ●月 ●日現在

写真を貼る位置

写真を貼る必要がある場合

- 縦 36～40mm  
横 24～30mm
  - 本人単身胸から上
- ※データの貼り付けも可

ふりがな	しみず たろう
氏名	清水 太郎

西暦年	月	学歴（高校以降）・職歴（項目別にまとめて書く）
		【学歴】
20XX	3	〇〇高校卒業
20XX	4	■■大学〇〇学部▲▲学科 入学
20XX	3	” 卒業
20XX	4	◇◆専門学校 通信制コース 入学
20XX	3	” 卒業
		【職歴】
20XX	4	社会福祉法人清水基金 しみず事業所 入職

西暦年	月	免許・資格（項目別にまとめて書く）
20XX	3	社会福祉士 取得
20XX	3	精神保健士 取得

# 推薦書

法人名 社会福祉法人清水基金

代表者名 理事長 清水一郎



被推薦者名 (申込者名)	清水 太郎
推薦理由	

## ご自身の支援事例について

法人名: 社会福祉法人清水基金

氏名: 清水 太郎

<b>テーマ</b>	Aさんの自立した生活
<b>支援目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自立に向けた理解の促進と取り組み</li> <li>②本人の利用可能なグループホームを見つける</li> <li>③家を離れて住むことの実践的経験を増やす</li> <li>④本人の今後の生活に必要な社会資源を見出す</li> </ul>
<b>対象</b>	<p>年齢:45歳 性別:男性</p> <p>障害または疾病:知的障害障害</p> <p>手帳種類及び等級:療育手帳B1(中度) 支援区分:3区分</p>
<b>支援の経過 現状の課題</b>	<p>①本人との面談本人からグループホームに興味があると話をうける。仲の良い作業所の利用者がグループホームから通所しており、興味をもったとのことだった。一人暮らししてみたいのか尋ねると「やってみたい」という。ただ、話を聞くと一人暮らしやグループホームでの生活に対して漠然としたイメージしかなく、自宅を離れて暮らすことの理解が十分でないことが分かった。グループホームに住むということはどういうことか説明すると、やや不安な表情を見せた。</p> <p>②ご両親との面談本人から、グループホームで住むことに興味がある話を伝えた。ご両親としては自分達も高齢になってきており、できれば一緒にいたい、今後のことを踏まえるとグループホーム等で生活できるよう自立を促したい、現在姉がサポートしてくれているが、負担も大きい、姉の負担も軽減させてあげたい思いもあるとのことだった。</p> <p>③本人の自立に対する理解の促進1人で暮らすために必要なこと(家事や金銭管理、生活習慣等)を具体的に項目化し、本人に説明。本人と今できることとできないことを整理した上で、もう一度本人の意向を確認すると意思は変わらない様子。ご家族にも相談し、今の本人の状況とグループホームに向けて本人の身につけていくべきことを確認した。ご家族は、金銭管理について特に心配していた。</p> <p>④自立に向けての取り組みグループホーム居住を最終目標に、洗い出した身につけるべきことを段階別に分けて、できることを段階的に増やす目標を設定し目標管理シートを作成。できるようになったことには、スパイダーマンシールを貼り、本人が楽しめるようにした。ご家族やサービス利用事業所にも目標を共有。作業所には金銭管理の指導を連携しながら行いたい旨説明。</p> <p>⑤グループホーム探し自宅周辺に空きがなく、自宅から電車で30分程のところなら受入れ可能だった。しかし、現在、作業所は自宅の徒歩圏内、交通機関を利用した通所経験がない。本人のあまり馴染みがない土地でもあり、その点を本人が順応できるのか課題となった。</p>
<b>関係機関等の 役割分担 (支援状況)</b>	<p>福祉事務所:本人に合ったグループホームや通所期間等検討、調整。関係機関との連絡調整。通所事業所:他のグループホーム利用者から経験を伝える機会を持つ。金銭管理の支援。行動援護事業所:外出時の金銭管理の支援、危機のときの対応(迷子になったとき電話連絡の仕方・交番へ駆け込むなど)。</p>
<b>考察</b>	<p>・現在は支援目標の4つのうち③④には進めていない状況である。①について・本人のモチベーションは高く、近隣のグループホーム見学をしたことで更にやる気が出ており、家族も自立に向けた取り組みに協力的。今後はショートステイも行う予定。・比較的すぐにできそうなことから短期目標の項目にしたことで、できることは増えている。特に、家の手伝いは元々積極的だったため、自分の部屋以外の場所の掃除を行う等、できることが増えている。・金銭管理は買いたいものを買う衝動を抑えられず、どのように支援をしていくかが課題で、作業所やご家族と話し合いながら支援方法を検討していきたい。②について・候補のグループホームについて、一人での交通機関利用経験がないため、一人で電車通勤が可能か、また新たな地で順応できるかなど支援方法も含め検討する必要がある。・電車利用が難しい場合も視野に入れ、グループホームの候補、本人に必要な社会資源を再度検討する必要がある。</p>

## ご自身の支援事例について

法人名: 社会福祉法人清水基金

氏名: 清水 太郎

### ■本人の状況について

主訴(意向・希望)	
本人: 一人暮らしをしてみたい 家族: 今後を踏まえ、グループホーム等自立した生活を目指してほしい	
本人の性格・特性	家族構成・家族構成の特徴・キーパーソン
性格: 穏やかで人懐っこい性格。しかし、自分の気持ちがうまく伝わらない、うまくいかないことがあると癇癪を起こし、物を壊す、母親に暴力を与えるといった行動が現れる時がある。 得意、不得意: 手先が器用で几帳面。家の手伝いは積極的。決めたところに物を置きたがる。 金銭管理が苦手であるだけ使ってしまう。 好きなこと、嫌いなこと: スパイダーマンが好きで、映画を何度も見る。嫌いな食べ物が多い。 その他:	父 60代 母 50代 兄 40代(婚別)姉 40代(婚別)  特徴: 両親との3人暮らしであるが、姉が近所に住んでおり、不定期に母親のサポートやAさんの外出のサポートをしてくれる。  キーパーソン: 母親
福祉サービス等社会資源の利用状況	住環境・経済状況
平日: 就労継続B型(週5回) 土日: 行動援護(月2、3回)	住環境: 自宅(持家) 経済状況: 父親の自営(不動産会社経営) 障害年金: 無
障害歴	医学的情報(服薬・受診歴等)
[胎生期・出生期] 正期産 [発育・養育歴] ・始歩1歳 発語3歳過ぎ ・診断3歳児検診にて障害の疑いあり ・M 保育園通園 ・5歳で診断を受け、相談等開始 ・N 療育支援センター通所	・1976年 K病院初診 ・1978年 通院開始[服薬]向精神薬
学歴・職歴	生活歴・現在の生活状況
[学歴] ・1980年～ 小学校普通学級 入学 ・1982年～1986年 特別支援学級転入 ・卒業・1986年～1989年 特別支援中学校 ・1989年～1992年 特別支援高校  [職歴] ・1998年 S作業所通所。	・小学校2年時より情緒不安定となる。パニックや喧嘩等のトラブルがあり、近隣の特別支援学級に転入 ・高校卒業後の進路が決まらず、3年程引きこもりに近い状態になり、母親への暴力も頻発に起こる。 ・家族も対応困難となり、入所施設Rに入所。 ・2年の入所期間を経て、本人の状態が落ち着き、かつ親の意向もあり、在宅に戻る。 ・1年日中活動支援をいれ、作業所の通所を開始。 ・平日は作業所、休日はサービス利用や姉の協力での外出を楽しんだり好きな映画を見る等余暇活動を行っている。